

令和7年度 発達障害者相談支援スキルアップ研修 実施報告

社会福祉法人 嬉泉

1

研修概要

目的: 区市町村における相談支援の質を確保するため、支援現場で中核を担う人材の育成(より実践的な技術の取得(スキルアップ))を図り、相談支援窓口における支援力の強化に資すること

対象: 区市町村ならびに発達障害に関わる支援機関において、相談支援業務等の中核を担う職員

内容:

- 相談研修Ⅰ「思春期の発達障害～理解と支援～」
- 相談研修Ⅱ「乳幼児期の発達障害～理解と支援～」
- 相談研修Ⅲ「保育所における発達に課題のある子どもへの支援～保育所の実際の取り組みから学ぶ～」
- 相談研修Ⅳ「発達障害のある子どもの家族への支援」
- 相談研修Ⅴ「強度行動障害における昨今の課題」
- 相談研修Ⅵ「青年期の発達障害～教育から社会へ～」
- 実技研修Ⅰ「発達障害のある人へのソーシャル・スキルズ・トレーニング ～『SST』という支援方法を知らう～」
- 実技研修Ⅱ「発達障害のある人へのアセスメント技術を高める」
- 実践発表 「通所施設における発達障害のある人への支援の実際」
- 体験研修 「通所および入所施設における1日体験研修を通して、発達障害者への理解と支援を学ぶ」
 - ① 「袖ヶ浦ひかりの学園」(入所施設)
 - ② 「おおらか学園」(通所施設)

2

■ 相談研修Ⅰ 研修内容

■ 相談研修Ⅰ 「思春期の発達障害 ～理解と支援～」

- ・講師:木村 一優 氏
(医療法人新新会多摩あおば病院副院長 精神科医師)
- ・事例提供者:野間口 翔子
(清瀬市子どもの発達支援・交流センター 公認心理師)
- ・日時:令和7年7月4日(金)13:00～16:00
- ・場所:ワйм貸会議室高田馬場
- ・実施形態:集合研修
- ・参加人数:20名(定員20名)

3

■ 相談研修Ⅱ 研修内容

■ 相談研修Ⅱ 「乳幼児期の発達障害～理解と支援～」

- ・講師:田中 哲 氏
(子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ院長 精神科医師)
- ・事例提供者:二階堂 奈央美
(大田区立こども発達センターわかばの家 指導主任)
- ・日時:令和7年9月13日(土)13:00～16:00
- ・場所:ワйм貸会議室高田馬場
- ・実施形態:集合研修
- ・参加人数:20名(定員:20名)

4

■ 相談研修Ⅲ 研修内容

■ 相談研修Ⅲ 「保育所における発達に課題のある子どもへの支援 ～保育所の実際の取り組みから学ぶ～」

- ・講師:佐瀬 美穂(宇奈根なごやか園 園長)
- ・事例提供:和賀 茜(すこやか園 主任)
:小堀 勇士(宇奈根なごやか園 主任)
- ・日時:令和7年10月3日(金)14:00～17:00
- ・場所:社会福祉法人嬉泉 子どもの生活研究所
- ・実施形態:集合研修
- ・参加人数:12名 (定員:12名)

5

■ 相談研修Ⅳ 研修内容

■ 相談研修Ⅳ 「発達障害のある子どもの家族への支援」

- ・講師:岩澤 寿美子
(清瀬市子どもの発達支援・交流センター センター長)
- ・事例提供者:江村 久美子
(子どもの生活研究所 めばえ学園 主任)
- ・日時:令和7年11月8日(土)13:00～16:00
- ・場所:社会福祉法人嬉泉 子どもの生活研究所
- ・実施形態:集合研修
- ・参加人数:13名 (定員:12名)

6

■実技研修Ⅰ

研修内容

■実技研修Ⅰ

「発達障害のある人へのソーシャル・スキルズ・トレーニング
～『SST』という支援方法を知ろう～」

- ・講師:岡田澄恵氏(SST普及協会認定講師)
河島京美氏(SST普及協会認定講師)
清水有香氏(SST普及協会認定講師)
- ・日時:令和7年7月26日(土)10:00～16:00
- ・場所:ワйм貸会議室高田馬場
- ・実施形態:集合形態
- ・参加人数:20名(定員:30名)

7

■実技研修Ⅱ

研修内容

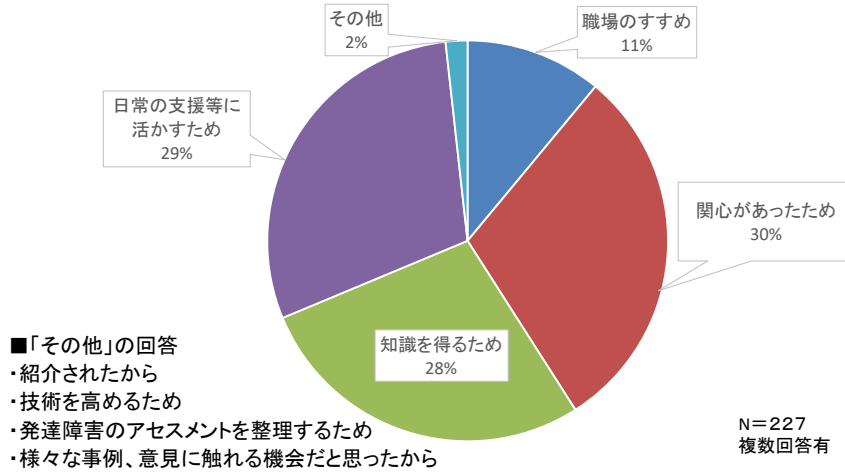
■実技研修Ⅱ「発達障害のある人へのアセスメント技術を高める」

- ・講師:近藤直司氏(大正大学名誉教授)
- ・日時:令和6年8月7日(木)10:00～16:30
- ・場所:ワйм貸会議室お茶の水
- ・実施形態:集合形態
- ・参加人数:19名(定員:20名)

8

実施状況 参加を申し込んだ理由(複数回答有)

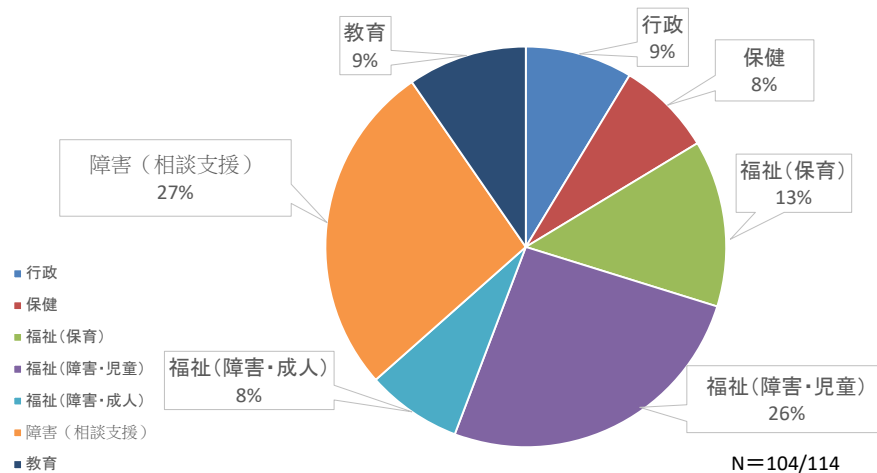
※令和7年11月30日までの実施終了研修
(研修回数:6回 参加者総数:104名)



9

実施状況 参加者の概況(所属・分野)

※令和7年11月30日までの実施終了研修
(研修回数:6回 参加者総数:104名)



10

実施状況

感想(事後アンケートによる)

【相談研修】

■講義

- ・思春期特有の困難や、行動の理由等、学べる機会は貴重だった。
- ・乳幼児期からの子どもの発達の仕組みを知ることで、支援に活かすことができると感じた
- ・集団の中で、発達に課題のある子どもを保育することにおいて、自園だけで抱えて悩んでいたが、研修で得たことをヒントに実践に活かしていきたいと思った。
- ・保護者支援において、これまでの支援を振り返り、伝え方がわかりにくいことが多かったのではないかとハッとしました。また、保護者の揺れ動く気持ちや変化を都度、受け止めていくことの大切さを改めて考えさせられた。

■事例提供＋グループディスカッション

- ・他分野、多職種とのディスカッションの機会は、自分が気づいていない部分に気づかされ、非常に重要だと思った。
- ・様々な視点から、事例をみて、考える機会になった。

11

実施状況

感想(事後アンケートによる)

【実技研修】

- ・情報とアセスメントを整理することの難しさを感じた一方で、支援を行っていく上での必要性、重要性を学ぶことができた。
- ・レポートする際に、必要な情報を見極めることの意識を持つことができた。
- ・支援方法のバリエーションを増やすことができた。
- ・利用者の特性に合わせ、さらに本人の自己決定を大事にし、練習課題を調整して支援を行っていくことの難しさを実感するとともに、その大切さを感じた。

12

実施中および実施予定 研修内容

■ 相談研修Ⅴ「強度行動障害における昨今の課題」

- ・講師:竹矢 恒 氏(一般社団法人あんぷ 代表)
- ・事例提供者:大塚 康子(相談支援事業所えにし 相談支援専門員)
- ・日時:令和8年1月14日(水)13:00~16:00
- ・場所:社会福祉法人嬉泉 子どもの生活研究所
- ・実施形態:集合研修
- ・定員:12名

■ 相談研修Ⅵ「青年期の発達障害～教育から社会へ～」

- ・講師:渡辺 慶一郎 氏(東京大学 相談支援研究開発センター 副センター長 精神科医師)
- ・事例提供者:柏木 理江(東京都発達障害者支援センターこどもTOSCA 相談員)
- ・日時:令和8年2月28日(土)13:00~16:00
- ・場所:ワイム貸会議室お茶の水
- ・実施形態:集合研修
- ・定員:20名

13

実施中および実施予定 研修内容

■ 実践発表「通所施設における発達障害のある人への支援の実際」

- ・講師:石井 啓(社会福祉法人嬉泉 理事長)
- ・発表者:西川 輝(板橋区立赤塚福祉園 副園長)・小熊 祐慈(おおらか学園 副主任)
- ・質問者:柏木 理江(こどもTOSCA 相談員)・鈴木 雅士(袖ヶ浦ひかりの学園 主任)
- ・日時:令和8年1月24日(土)13:00~16:00
- ・場所:ワイム貸会議室 お茶の水
- ・実施形態:集合研修
- ・定員:20名

■ 体験研修「通所および入所施設における1日体験研修を通して、 発達障害者への理解と支援を学ぶ」

- 日時:令和8年10月~12月 各月3日設定
- 定員:1日2名
- ①袖ヶ浦ひかりの学園(入所施設)
 - ・コーディネーター:菅原 良武(袖ヶ浦ひかりの学園 主任)
- ②おおらか学園(通所施設)
 - ・コーディネーター:坂下 幸生(おおらか学園 副園長)

14

中間総括

令和7年度は、これまでの研修に加え、よりニーズが高いと思われるものや、より実践的で各受講者の現場で即活用できるものを意識した研修を企画した。その中で、新たに「集団保育における発達に課題のある子どもへの支援」をテーマとした相談研修、又実際の現場における体験研修、そして事例から学ぶ実践発表を実施、予定している。

既に研修を終了しているものについては、概ね好評価を得ており、支援者としての自身の振り返りや新たな気づきにつながった等の感想があった。

又現在、実施中の体験研修については、定員総数36名に対し、23名の希望があり、実践的な研修に対するニーズの高さが伺えている。

ここ数年の課題である受講者の確保については、昨年度に引き続き、東京都からの各自治体への周知、社会福祉法人嬉泉のホームページへの掲載に加え、研修ごとに周知先を絞り郵送にて啓発する等の工夫を行っている。